

















六渡寺日枝神社の三体仏

小矢部川を下り放生津に至る中世の北陸道沿いの六渡寺は、日本海海運の要衝として大いに栄えた。当神社は近江坂本の日吉神社の末社で、薬師如来・釈迦如来・阿弥陀如来の三体仏を社宝（ご神体）としている。釈迦如来像はスギの一木造りで平安時代末期の作、薬師・阿弥陀如来像はヒノキの寄木造りで室町時代中期の作である。昭和四十五年九月、市の指定文化財となった。

正面の独特の合掌鳥居は瀬戸内産の御影石造りで、天保十年（一八三九）当地の海商湊屋清右衛門・北野屋与八の寄進による。また玉垣二七二柱には大坂から北海道に至る海商・并財船（北前船）の名が彫られており、船乗りの信仰の厚さを物語っている。

射水市教育委員会
六渡寺自治会



















































































